

年次

劇場並に狂言

古軀大夫に關する記事

淨瑠璃界一般

三月十六日初日
(二十九日間)

前 義經千本櫻 文 樂 座
道行之段迄
切 奥州安達原 袖萩祭文之段

四月廿三月初日
(三十日間)

前 本朝廿四孝 同 座
狐火之段迄
中 艶容女舞衣 長町美濃屋之段
土佐町之段より壺
切 壺坂靈驗記 迄坂寺御禮參り之段

五月廿四月初日
(四日間)

淡路志筑町 三島屋

六月一日初日
(三十二日間)

前 伽羅先代萩 文 樂 座
大序より御殿場迄
中 楠 昔 噺 津拍子之段より徳
攝津大塚銅像建設記念狂言
切 戀飛脚大和往來 新口村之段より長谷街道之段迄

役場 (初役)袖萩祭文之段切
三味線 三世鶴澤清六

役場 (初役)長町美濃屋之段奥
三味線 三世鶴澤清六
右役場は丸本通りとし松屋町六世豊
澤廣助新に節付せしものなり

一行
古軀大夫、清六、菅大夫、徳太郎
美大夫、猿太郎、吉野大夫、つば
清一
め大夫、辰大夫、清大夫、清二郎
(人形部)
文五郎、紋三、外數名

役場 (三度目)殖生村之段切
三味線 三世鶴澤清六
仲寫縁の當矢
妙落大夫、叶大夫、伊達大夫、む
ら大夫、町大夫、源大夫、南部大
夫、廣助、清六、竹三郎、廣太郎
猿二郎、友治郎
(人形)
中將姫(玉藏)、廣繼(琴糸)、お弓
(玉五郎)、おつる、猿助、八重桐

五月二十七日大阪天王寺境内に建設
中竹本攝津大塚銅像竣工、除幕式
を舉行、建設委員長は文部大臣中橋
徳五郎氏なりき。

攝津大塚銅像建設記念興行
六世豊澤廣助久々に出勤
六月十七日、八世鶴澤三三建幕式大
阪東區小橋光照寺に於て舉行さる

七月六日 初日
(四日 間)
七月十日 初日
(二日 間)
七月十五日 初日
(十五日 間)
八月二日
(六日 間)
八月九日 初日
(三日 間)
八月十三日 初日
(二日 間)
八月十五日 初日
(三日 間)
八月十八日 初日
(二日 間)
八月二十日
八月廿三日 初日
(二日 間)
八月廿五日 初日
(三日 間)

名古屋 御園座
一之宮 海壽義堂
東京 有樂座
仙臺 開明座
福島 新開座
大曲町 大曲劇場
秋田 秋田劇場
能代 米代座
湯澤 高吉座
尾張津島町 巴座
岐阜 明治座

(文三)、お染、榮三、久松(政鑑)
與二郎(玉藏、梅ヶ枝)(文五郎、政鑑)
葛の葉(玉七)、童子(玉德)、與勘
平(玉治郎)、野勘平(紋三)
一行
古賀大夫、清六、呂大夫、芳之助
英大夫、徳太郎、靜大夫、歌助、つば
め大夫、辰太郎、常子大夫、照大夫
友若、清一、清丸、宗吉
(人形部)
辰五郎、小兵吉、文五郎外數名
右の内、呂大夫、芳之助、照大夫は
有樂座打揚後歸阪す。

是にて夏休

年 次

劇場並に狂言

古親大夫に關する記事

淨瑠璃界一觀

九月廿六日初日
(二十八日間)

文 樂 座
前 生寫朝顔話 大序より
中 ひらかな盛衰記 道橋之段迄
切 伊勢音頭戀殺奴 油屋之段より
奥庭之段迄

十月三十日初日
(二十九日間)

同 座
假名手本忠臣藏 大序より仇討迄

十二月一日初日
(六日間)

和歌山 辨天座

十二月八日初日
(四日間)
十二月廿日初日
(八日間)

廣島 壽座
松山 新榮座

役場 (二度目) 濱松之段奥
三味線 三世鶴澤清六

役場 (初役) 祇園一力之段
掛合 平右衛門
三味線 三世鶴澤清六

(初役) 山科閑居之段中
(雪こかし)

三味線 鶴澤燕四

一行 古親大夫、清六、駒大夫、團六、
靜大夫、歌助、町大夫、友造、豊
島大夫、淺造、辰大夫、清一、富
榮大夫、清秀、清二郎、外に岸本
木村猪

(人形部)
紋三、政外數名

紋三、政外數名

一行 古親大夫、清六、時大夫、燕四、
靜大夫、歌助、英大夫、淺造、豊
島大夫、清二郎、辰大夫、清一、豊
圓大夫、清秀外に中村仙助、木村
猪之

本興行より時間改正あり正午開場、
午後九時閉場となり、漸次場敷短縮
さる。
鶴大夫、五世豊竹和泉大夫と改名。
第一回巡業、出發す。一座は伊達
尾大夫、三瀧大夫、三味線、吉三郎
叶、徳太郎、吉作外數名。
本興行は近來なき盛況にて初日より
モライ日迄大入満員なり、取都合
竹本越路大夫一座の東京行日取都合
にて廿九日間にて打場となる。
是にて冬休